

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800148		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	福島県喜多方市字下川原8290番地16		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所・デイサービス・デイケア・居宅介護支援事業所・メディカルフィットネス、が同一敷地内に併設されています。特に介護系の施設は同一の建物にあり、他職種との連携がとりやすい施設です。デイサービスは地域密着型なので、運動会やクリスマス会を合同で行っております。医療も併設の診療所が往診・訪問看護で24時間対応しています。当グループホームは利用者さんご家族が積極的な治療を望まない時には、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 春から秋までは毎月、近隣の名所にドライブに出かけ、帰りに自宅に寄る等、利用者の馴染みの関係継続の支援に努めている。また、コロナが少し落ち着いている時期には、馴染みの美容室に行くために自宅に外泊し、出かける利用者もいる。
 2. 一人一人の利用者の残存能力を活かし、ちぎり紙の貼り絵・塗り絵・千羽鶴・調理の下処理・後片付け・清掃等、本人が望む様々な活動を支援し、利用者の張りのある生活づくりに努めている。
 3. 月に1度(日曜日)は、利用者にご得意な巻き寿司を作ってもらい、皆に振舞ってもらう日としている。また、毎週水曜日は手作りおやつを利用者にも手伝わってもらうなど、楽しみのある食事の提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で今までの暮らしを継続できるように支援する。特に診療所があり、医療体制は整っているので安心して暮らせるように支援しています。	昨年の外部評価で改善項目となり、地域密着型サービスの意義を反映したグループホームの理念を作成した。しかし、作成した理念の掲示や唱和などの職員間の共有は十分ではない。	見直したグループホームの理念を掲示したり、唱和したりしながら職員間で共有し、理念の実践に向けて取り組んで欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者さんの3分の1は当診療所か介護施設を利用していた方です。地域との交流は難しいですが、以前からの顔なじみの方が多く、知り合いもいます。	コロナ禍に開設した事業所は、積極的に地域との交流を行うことは難しいが、地元で開業しているクリニックが開設したため、町内会や民生委員の協力が得られている。利用者も地元の顔なじみの方が多く、安心して過ごせる環境である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の回覧板に2ヶ月に1度グループホームの様子を掲載しています。診療所にもグループホームで作った掲示物を展示している。運営委員会から地域の高齢者について情報が入っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施しています。レクリエーションや避難訓練にも参加していただいています。施設から出での活動は出来ていません。会議メンバーからは感染対策などアドバイス頂いています。	感染対策を取りながら、2か月に1回会議を開催しており、会議の際に避難訓練やレクリエーションを実施し、参加を得ながら事業所の実情を伝えている。参加した委員からもコロナ対策について助言をいただき、特に各利用者の手洗いを実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談があれば市に問い合わせています。運営推進会議時にも市の方の意見を伺っています。	市の担当者は運営推進会議の委員になっており、行事にも参加し事業所の状況等を把握している。また、管理者は市が開催するグループホーム連絡協議会に出席し、市担当者や関係機関との情報交換や地域課題の共有を図っている。何かあれば電話等で相談を行う等、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会も定期的に開催して、何が拘束になるのかを日々考えています。行動制限を出来るだけしない支援を行っています。	身体拘束指針をもとに、毎月、身体拘束委員会を開催している。また、内部研修会を行い、身体拘束により利用者が受ける精神的身体的な苦痛や弊害等について理解を深め、拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠は夜間のみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員に研修を行っていただいたり、外部の研修にもオンラインで参加しています。拘束委員化で虐待についての研修や話し合いを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度のオンラインでの研修を受けています。実際に後見人制度を利用されている利用者さんはいません。今後勉強会等を行って行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度ご家族には文章にて説明しています。ご家族様が何でも相談しやすい様に自宅に配布物を持参したりしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の入り口にご意見箱を設置しています。普段から電話等での情報交換を行っています。	日頃のケアの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、家族は来訪時や電話連絡時に意見や要望を聞き、出された意見や要望を運営に反映させている。利用者の要望は、職員全員で協議しながら、出来るだけ支援につなげられるよう取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部会やその都度職員の意見を聞きながら行っています。全員の意見を拾えていない所もあるので今後は意見を出しやすくしていきたい	毎月の部会(職員会議)や日常の業務の中で管理者は職員の意見を聞き取っている。また、法人役員の個別面談を通して職員の意見・希望・不安等を把握し、事業所や法人で検討し、採り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理にならないような勤務体系を作っています。休みもゆっくり出来るように連休を作ったりしている。日勤でできる事は行うようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な職員と施設長とのヒヤリングを行っています。研修も十分に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の拡大により、外部の部会がほぼない状態でした。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態にもよりますが、自宅で行ってきた役割は施設でも行ってもらう。本人がやりたい事を伺いながら支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さん家族の状況に合わせています。近くにご家族が居ない場合や、運転など出来ない家族などそのケースに合わせて支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立した生活が送れ、ADLを拡大できるように支援しています。その時々にあったサービス提供を職員で話し合いながら行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんを中心に出来ないところは支援しながら、掃除・食事等積極的に行っていたいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限されている環境ですが、電話やライン電話と手紙などではご家族と繋がっている。本人のご様子分かるようにお便り等も写真を取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話等での連絡は行っています。感染症の状態に応じて柔軟な対応をしています。ドライブに出かけるときには利用者さんの自宅に回ってきたりする。	利用者の馴染みの関係を大切に、春から秋には毎月ドライブに出かけ、途中で自宅に寄る等、関係継続の支援を行っている。現在、コロナ禍のため、窓越し面会等を実施し、利用者の不安を解消し馴染みの関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が触れ合えるような空間があります。車椅子を押してあげたり、シーツなど大きい洗濯物は二人で畳んだりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に併設の施設を利用している方もいて、顔を合わすようにしています。他誕生日にはラインでおめでとうと送ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人でゆっくりと過ごしたい方には、居室で過ごして頂いている。時々、外泊をして美容室に行ったり、自宅で過ごしている利用者さんもあります。	毎日のケアの中で利用者の思いや意向を把握し、家族の意見や意向も確認している。また、日常生活の中での表情・行動や仕草から推測して汲み取り、利用者本位の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用していたデイサービスに利用日に行ってレクリエーション等に参加しています。得意なお寿司握りなど行っていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや運動の提供も行っています。ご本人がやりたい事を出来るだけ行うように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のグループホーム部会で利用者様のカンファレンスを開催、計画見直し時は担当の職員と一緒にアセスメントをしてサービス計画を立てています。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した介護計画のサービス内容に即した支援を行っている。評価では、日常的な利用者の変化や課題を出し合い対応策を検討しているが、サービス内容が多すぎて職員の理解が不十分であり、ケース記録にサービス内容の実施ごとの記録がない場合が見られた。	ケース記録には介護計画のサービス内容の実施状況を記録し、記録を基にモニタリングし、ケアに反映させることが重要である。そのため介護計画を見直し、大切な部分に絞って作り直し、職員は、介護計画を理解し、個別記録を適切に残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、事業日誌等へ記載し申し送りや部会などで情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が望む事は出来るだけ支援していきたい。医療とも連携しながら対応していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室に近所の方の送迎で行ってきたり、電話で友人に買い物をお願いしている利用者さんもいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している医療機関に協力して頂いています。又専門医への受診にも対応しています。	ほとんどの方は、系列医療機関が主治医となっており、1ヶ月に1回往診で対応している。体調変化時はすぐに電話で報告し、変化の無い時は、あおぞら便で家庭へ報告している。他の主治医の方は家族が通院介助し、受診時は日頃のバイタルや体調等の記録のコピーを渡し、受診結果の報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携は取れており情報の共有もできています。診療所が併設しているために、看護師や先生も様子を見に来てくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを記入してもたせています。入院後は相談員さんと情報のやり取りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うグループホームです。ご家族とも密に連絡をとって、その都度主治医を中心に、ご家族とご本人の希望を伺いながら支援しています。	入居時に重度化・看取り等の指針を説明し、利用者・家族の同意を得ており、看取りの意向も確認している。その後心身の状況の変化に応じて意向の再確認をしている。今後、重度化・看取り対応の研修も年間の教育訓練計画に入れる予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、救急隊の連絡の仕方は周知しています。AEDも点検しています。応急手当は今後勉強会を行って行きたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームでは毎月避難訓練を行い。法人としても年2回は合同で避難の訓練を行っている。地域とは区長さんには災害時近隣の住民が避難できる施設であることを話してあります。	年間を通して、火災・水害・大雪等の定期的な訓練を行っているが、夜間想定訓練は年に1回の実施であった。今年度の運営推進会議の際に避難訓練を実施し、委員にも参加してもらい協力体制を構築している。備蓄は、法人で1週間分を準備している。	夜間想定訓練を数多く実施し、夜勤対応職員が全員、夜間想定訓練を実施出来るようにして欲しい。また、有事の際に地域協力者へ連絡が行くよう連絡網に組み込むことも検討してほしい。避難場所となる階段踊り場に転落防止対策があるとさらに良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にキャリアウーマンだった利用者に関しては、否定をしないようにしています。大声にならないように、やさしく言葉かけを行うようにしています。	職員間で確認しながら、オムツ交換時に戸を閉め、トイレ誘導時は耳元で声掛けを行い、浴室での更衣時には戸を閉める等プライバシーに配慮した基本的ケアの徹底を図っている。利用者の書類は鍵付きのキャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや体操の時間等は施設の時間が決まっていますが、お部屋で休みたいとの希望があれば対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや体操の時間等は施設の時間が決まっていますが、お部屋で休みたいとの希望があれば対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や口紅を付ける等毎日の声掛けを行っています。着替えもご自分で準備出来る方にはお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下準備や盛り付けを行って頂いています。季節の食材を取り入れて、食欲が出るように工夫しています。	利用者にも出来ること(野菜切り・盛り付け・後片付け等)を手伝ってもらい、一緒に行っている。好き嫌いアレルギー制限食等は、入居時に確認し、対応している。水曜は手作りおやつを利用者と一緒に作り食事が楽しめるよう支援している。また、月に1回、利用者が得意の巻きずしを全員に振る舞っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量をチェック表に記入し確認しています。特に夏は食欲が無くなるので主治医と相談しながら経口栄養剤も処方して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は毎食後行っています。なかなか毎食後は出来ていないので今後の課題にします。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行ったり、パットの使い分けをしています。	排泄パターンや排泄サインを見ながら、定時トイレ誘導も行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。職員の見守りがあり、利用者のほとんどが自分でトイレに行くことができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の確認を行い下剤の調整等を行ったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望で回数は決めています。時間帯は日勤の時間で入浴して頂いています。	利用者の希望を確認しながら、週2回の入浴支援を行っている。現在は、日勤帯での入浴対応をし、冬季は、保温効果を高めるよう入浴剤を使用している。浴槽を跨げない場合は、併設事業所の機械浴を使用出来る体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のリズムに合わせてはいますが、食事の時間は施設に合わせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なるべく1包化にして、誤薬がないようにしている。便通の薬は本人と相談しながら服薬を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前は寿司を握ってくれる利用者さんが居た時には、月に1回屋に寿司を作って頂いていた。ヨーグルトを自分で毎日作って食べている方もいました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの美容室があれば施設から送迎で行っている。眼科や専門医の受診時は職員がついて外出する程度です。	コロナ禍での外出支援は、感染防止対策をとり、ドライブで花見・公園・白鳥見学等に出かけ、要望に応じて自宅に寄る機会も作っている。また、馴染みの美容室に行くために自宅に外泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかい程度自分で管理している方はいます。美容室に行った時などに使用している。クリニックにパン屋さんがあるので買い物に行ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染症の拡大により、面会がほぼできていない。電話は個人の携帯や施設の携帯から自由にかけて頂いています。手紙もなかなか書くのは難しいので施設便りを月に1回発行		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには毎月壁飾りを利用者さんが手作りで作っている。(季節感のある物)ホールではメダカを飼育、観葉植物を置いて、利用者さんが自主的に水をあげたりしています。	事業所は不快な音や光はなく、感染防止対策を取りながら、エアコンや加湿器を使い、温湿度管理を行っている。利用者とのレクリエーションで作った季節ごとの作品を掲示して有り、ソファも置かれ居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間がホールになります。食事やレクリエーション時の座る場所は決まっている。ゆっくり過ごす時にはソファを利用して談話をしたり、テレビ視聴を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅で使っていた布団やテレビなどを持参して頂いている。本人の使いやすく移動がしやすい様に居室は理学療法士の意見を取り入れながら配置しています。	入居に際して、自分の使用している湯呑・茶碗・箸は、必ず持参していただき、その他馴染みの家具・家電・写真等思い出ある物等で居室作りを行っている。換気・室温調整と居室清掃は、利用者にも出来ることを手伝ってもらいながら、職員が必要に応じて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	片麻痺の方には健側側に手すりが付いているトイレを使用してもらいトイレ動作が自立出来ている。居室にはマットをひいて、利用者さんの移動が自立出来るように支援しています。		